［特集］
日本社会・地域経済を支える
建設産業の現状と未来への展望

02 地域の建設業

建設業の活力再生を目指し建設企業の連携による新事業開拓

セントラル建設株式会社（岐阜県）・協栄建設株式会社（京都府）

国土交通省では、建設企業の連携によるフロンティア事業（※）で、建設企業が連携体をつくり、新たな事業を生み出せるよう支援しています。中でもユニークな取り組みを行う2社を紹介します。

セントラル建設

岐阜県恵那市

建設と介護の〝複業化〟によってきめ細やかな「安心」を提供する

豊かな田園風景が広がる岐阜県恵那（えな）市。セントラル建設はこの地域で、昭和36年から土木・舗装工事を中心とした建設事業を手掛けてきましたが、公共工事の減少により需要が低迷。新規事業を模索した結果、今後増加が見込まれる在宅介護者向けの事業へ。

車椅子やベッド、手すりなどの介護用品のほとんどは、レンタルすることで介護保険から9割が負担されます（介護度の認定によって上限額は異なる）。そこで平成18年、介護用品レンタル事業を開始。すると自然とリフォーム注文が舞い込むように。在宅介護を行う場合、段差の解消や車椅子が通れる廊下への改修、お手洗いへの手すり設置など、介護のためにリフォームをする必要が出てくるのです。現在は介護用品レンタル利用者の約４割からリフォームを受注するまでに成長。この相乗効果を、同社代表取締役社長の阿部伸一郎氏は「建設と介護の複業化によるもの」と説明します。

代表取締役社長・阿部氏

「建設業者として地域で培った信頼感は、介護用品レンタル事業の基盤となりました。さらに介護用品を通じてお客様の〝生活〟に寄り添うことで、的確なリフォームの提案が可能になり、声もかけていただきやすくなったようです」

地域密着型の事業展開について全国に向けたコンサルタント事業を開始

同社に介護用品の発注を行うケアマネージャーの西尾さんは、「介護に関するリフォームにはトラブルが起こりやすいので、建設技術と介護知識の両面から見た提案には私たちも学ぶことが多いです」と建設と介護の両面を持つ利点を実感されています。

西尾さん

夫を介護中という藤田さんも「担当さんが孫のように話を聞いてくれるのがうれしい。無理だと思ったところにも手すりをつけてくれて驚きました」とベッド脇や岩風呂の手すりを指して満足されている様子。ほかにも、細い室内通路を通れる車椅子を探してもらうなど、きめ細やかな対応に感謝しているそうです。

「地域との絆を軸に、人々の暮らしの課題を解決する企業になりたい。ですからほかの地域でこの事業を展開するつもりはありません。ノウハウを全国の建設企業に提供し、建設業に元気を与えたい」と阿部氏。この取り組みに関心を持った建設業者が、全国各地から訪れているそうです。

ベッド脇や岩風呂に設置された手すりにご満悦の藤田さんと同社営業の中山氏

協栄建設

京都府綾部市

土木技術を駆使した林道整備で京都の豊かな里山をよみがえらせる

京都の水源といわれる綾部市の里山。過疎化や林業の低迷により、十分な手入れがされず、荒れた山も少なくありません。しかし、木材自給率向上を掲げる国の施策を受け、新たなビジネスチャンスも生まれています。そこに可能性を見いだし、手を挙げたのが、府内で建設業を営む協栄建設でした。

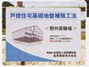
「京都で活動するわれわれには、林業との連携は自然なことでした。情報収集のため専門家と交流するうちに、当社の土木技術が里山の森林再生に大きく貢献できると実感したわけです」と、この事業の責任者である専務取締役の今西恵一氏。専門家を招き、山から木を切り出すための専用道となる森林作業道を開設するオペレーターの林猛氏を育成し、山全体をデザインする森林部門技術士の仲矢順子氏を採用しました。

開設された森林作業道

仲矢氏に案内され、実際に整備している山へ入ると、細い木が密集し折れ重なる荒れた場所と、太くのびやかな木の多い場所があることに気付かされます。

「密度の高い人工林では、調査や間伐など、人の手が入ることが必要なのです。まずはそのために不可欠な林道を今後5年間かけて網の目状に造成していきます」

木の太い部分は木材市場へ



放置されている細い間伐材で基礎地盤補強工法を開発中

多様性に富む里山の価値を模索し、先の長い山の未来を創造する

長い停滞期を経た里山を再生するのは並大抵のことではありません。それだけに山の所有者との協議は大変重要です。協栄建設では、平成24年に山の一部を借りる形で試験的に林道を整備。所有者である社団法人志賀郷和会（しがきょうわかい）会長 木枝治氏は「これなら任せられると思った」と振り返ります。

「調査によって珍しい木の存在や植生分布が明らかになり、所有者である私たちも山の森林が資源として価値のあるものだということを再認識しました。山の再生は先が長い。子や孫の時代にその価値を最大化できるよう、このプロジェクトには期待しています」

森の中では道を切り拓くショベルカーと運搬用に枝を切り落とすチェーンソーの音が響き、鮮やかな赤土の上を丸太を積んだ木材運搬車が進んでいきます。木材市場での国産材の流通促進や、間伐材として切り出された木の有効活用など課題は多く残ります。まだ100年単位という事業の端緒についたばかり。協栄建設の挑戦は続きます。

林業に取り組む関係者の皆さん。前列中央が木枝氏、右が今西氏、左がオペレーターの林氏と技術士の仲矢氏

各社のフロンティア事業概要

協栄建設株式会社

建設会社1社、鉄筋会社1社と共に林建共同体を設立。

- ●雇用…森林作業道開設オペレーター7名育成、森林技術士1名雇用
- ●成果…森林施業技術者育成訓練（1年間368名受講）、森林作業道整備 6.1km、間伐面積26ha

セントラル建設株式会社

雇用拡大を図り、さらに『建設と介護の複業化モデル』を広めるために、建設企業1社と他業種を加え「チーム Life Care」を設立。

- ●雇用…介護資格者3名、住宅事業2名雇用
- ●建設需要…介護用品レンタル利用者の増加と比例して、介護及び一般リフォーム受注の増加
- ●全国展開…ビジネスモデルの紹介により全国5社が同様の事業を導入（平成25年6月現在9県11社）。現在も事業モデルを学ぶ地方からの視察を受け入れている。

※建設企業の連携によるフロンティア事業（平成23～24年度）……建設企業が連携し、技能者などを新規雇用することで維持管理、エコ建築、耐震、リフォームなどの成長が見込まれる市場の開拓を支援する事業。要件：① 建設企業2社以上の連携体であること。②予定事業期間内に技能者、技術者、若年者などの人員を1名以上雇用し、事業期間終了後も継続雇用の見込みがあること。